

市報

No.572

平成19年(2007)1月15日発行

発行人：飯山市長 石田正人

編集：飯山市役所総務部

庶務課秘書広報係

〒389-2292 長野県飯山市

大字飯山1110-1

電話：0269-62-3111

FAX：0269-62-5990

インターネットホームページアドレス

http://www.city.iiyama.nagano.jp

E-mail：kikaku@city.iiyama.nagano.jp

もくじ

市長・市議会議員新年あいさつ	2～3ページ
現ごみ処理施設の稼働延長について 関沢区と協定	3
市議会12月定例会から	4
寡雪対策資金の貸付あっせんを行います	4
パソコン講座のご案内	5
事務事業評価の結果	6
税の申告は正しくお早めに	8～9
市・県民税が変わります	10～11
経済活性化のための情報をお寄せください	12

新年のごあいさつ



飯山市長 石田正人

新年明けましておめでとうございます。市民の皆様におかれましては、健やかに新春をお迎えのこととお喜び申し上げます。

さて、私は昨年9月に市長という大任を仰せつかりました。国の三位一体改革等で飯山市も厳しい財政状

況にあり、新幹線飯山駅周辺整備事業がいよいよ本格化する中、慎重な舵取りが必要とされております。私も就任して日が浅い訳ではありますが、市民の皆さん総参加の協働の力をいただき、飯山市に住んでよかつ

た」と言える市をつくらせていきたいと考えております。昨年を振り返ってみますと、11月には市の組織機構を改革し建設水道部内に「いいやま住んでみせん課」を新設いたしました。これは市制発足以来減少し続ける人口に歯止めをかけ、自立計画の柱である「人口2万5千人の維持」を果たすための実働部隊として設置したものであります。新設以来、大きな反響を頂いており、既に訪ねて来られる方も何人かいらつしやいます。19年度はここから大きく全国にアピールし、

飯山市の素晴らしさを日本中に伝えていきたいと考えています。先人が思いを持ってつくられた悠久のふるさと飯山。先人からお預かりした自然、農地、商工業を次の世代に渡していくこと

は、現在生きる私たちの責任という認識を持ちながら市政運営にあたっていくべきです。

また年末には懸案でありました岳北広域行政組合の、現ごみ処理施設の稼働を二年間延長していただくことに、地元関沢区の皆様より同意をいただき、新たな協定を結ぶことができました。関係者の皆様に対し心より御礼を申し上げます。二年間でしっかりと新クリーンセンターを整備し、地元の皆様にご迷惑をかけないよう対応する決意であります。

七年後には飯山市に新幹線がやってくる予定です。昨年は飯山トンネルの入口部が開削、長峯トンネルの掘削も始まるなど、目に見える形で工事が進み、市民の皆様も身近に新幹線の到来をお



△新駅から飯山トンネル間も工事が進む

感じのことと思います。この夢と希望を乗せた新幹線、これをいかに市の活性化につなげるかという大きな課題を、市民の皆さんと共に取り組んでいきます。

この他、今年の取り組みべき課題は、総合福祉センターの移転、産婦人科・小児科をはじめとした医師不足問題など多くあります。またお年寄りの知恵をお借りした、子供の教育や家庭内の問題

等の解決にも大きな効果があるであろう、3世代同居の家庭を応援するための何らかの支援策も検討していきたいと考えております。

飯山市は農業・商工業・観光資源を兼ね備えた恵まれた地であります。おいしい自然の水、地域で作られた安心・安全な農産物、四季の移ろいを肌で感じることでできる環境は、どこにでもあるというものではなく素晴らしい飯山の恩恵であります。個人が元氣を出し、どうやったら地域に貢献できるか、協働の力を結集できるかをみんなで考え、平成19年を新たな出発の年にしようではありませんか。

新しい年が市民の皆様にとつて素晴らしい年となりますよう心からお祈り申し上げます。年頭のごあいさつといたします。

新年のごあいさつ



飯山市議会議長 山崎一郎

くお願い申し上げます。

さて、昨年この地域は60年ぶりの豪雪に見舞われ、自衛隊の派遣要請と災害救助法の発動という事態になりました。誠に不運にも3名の方が亡くなるという悲しみがありました。また、多くの家屋や農作物に多大な被害があり、その復旧に取り組んだ一年でもありました。更に7月には、昭和58年に次ぐ豪雨がりました。幸い大

きな被害に至りませんでした。が、地域の安全安心のための課題が明らかになりました。また市政には、新ごみ処理施設の建設、総合福祉センターの移転、新幹線開業に向けたまちづくり、少子・高齢化と人口減少への対応策、更には地域医療の問題、観光や商工業と農業対策等地域産業の活性化への取り組みなど、急がれる重要問題が山積しております。このよう

な時こそ議会の役割が大変重要であると認識しております。幸いこの地域は、四季の変化に富んだ羨むべき自然環境や、人との出会いを大切に

する温かさや心なごむ人情味など、人が生きるに最も大切なものが根づいている全国に誇れる地域でもあります。

終わりに、議会を代表して市民皆様方のご多幸とご健勝をご祈念申し上げます。年頭のご挨拶いたします。

この日は関沢区の役員3名が市役所を訪れ、米持護区長は「これまで苦しんだ時期があったが、もう一度検討し、地域の一員として受け入れることとした」と、石田市長に現施設の稼働2年延長を受け入れるとの区の決定を伝えました。これ

に対して石田市長は「これまでご苦労、ご迷惑をおかけしたことに詫言を申し上げます。これから責任を持って工事を進め、2年後には必ず新しい施設を完成させる」と答えました。

現施設の稼働については公害防止協定で平成19年3月までとなっています。しかし、これまで新施設の着工に向けた準備を中断せざるを得ない状況となつてきたことなどから、岳北広域行政組合では、施設がある関沢区をはじめ、近隣である瑞穂地区の針田区、常盤地区の大倉崎区、上野区に



△区の決定を石田市長に伝える米持区長

に対し現施設の稼働2年延長を受け入れていただくよう要請してきました。

新施設については今後、公募型の指名競争入札による業者の決定、各手続等を経て、今年秋までには施設本体の工事に着工する予定で、稼働は平成21年4月1日からとなります。

現ごみ処理施設の稼働延長について 地元関沢区と協定を締結

現施設の稼働を平成21年3月末まで延長へ

12月26日、現在稼働している瑞穂地区関沢の現ごみ処理施設(岳北クリーンセンター)について、稼働を2年間延長する協定を、地元関沢区と岳北広域行政組合(組合長 石田飯山市長)が締結しました。

この日は関沢区の役員3名が市役所を訪れ、米持護区長は「これまで苦しんだ時期があったが、もう一度検討し、地域の一員として受け入れることとした」と、石田市長に現施設の稼働2年延長を受け入れるとの区の決定を伝えました。これ

に対して石田市長は「これまでご苦労、ご迷惑をおかけしたことに詫言を申し上げます。これから責任を持って工事を進め、2年後には必ず新しい施設を完成させる」と答えました。

新しい議会構成
市議会の新しい委員会構成等は次のとおりです。
(◎は委員長、○は副委員長、敬称略)

議長 山崎一郎 **副議長** 西條豊致

■総務委員会
◎小林喜美治 ○坂原シモ
上松永林 水野英夫 望月弘幸

■産業建設委員会
◎佐藤正夫 ○大野峰太郎
竹井政志 渡邊吉晴 沼田喜一

■社会文教委員会
◎水野晴光 ○小林初子
久保田幸治 小林洋之 高橋正治
西條豊致

■議会運営委員会
◎久保田幸治 ○渡邊吉晴
水野晴光 小林洋之 沼田喜一
高橋正治